

避難所に感染防止策

◆新型コロナウイルスの感染拡大と自然災害の「複合災害」への備え

複合災害で学会提言

避難所で「3密」を避けるためのスペース確保、消毒液やついたてなどの用意



親戚や知人宅などを避難先として確保

熱中症対策で扇風機や空調の準備



気象学や災害医学など防災に関連した58学会で作る「防災学術連携体」（事務局・東京）が1日、新型コロナウイルスの感染拡大と、大雨などの自然災害が重なる「複合災害」への備えを促す緊急提言を発表した。

5月の大型連休後、日本列島は沖縄から順に梅雨入りする。提言では、住民と自治体に、水害時などの避難所で密閉、密集、密接の「3密」状態を避け、ウイルスの集団感染を防ぐための手立てを示した。

具体的には、被災者同士が接触しないよう、ついたてを設置したり、感染者を隔離する別の建物を用意したりするなどの工夫を求めた。事前に親戚や知人宅などを避難先として確保することも提案した。

梅雨明け後の猛暑対策も盛り込んだ。熱中症で基礎体力が落ちると重症化の危険性が高まる。扇風機や空調を用意するよう促した。

連携体代表幹事の米田雅子・慶応大特任教授（土木・建築学）は「複合災害が生じると被災者と感染者の両方への対応で医療崩壊が生じかねない」と話す。